

富山県小矢部市泉町方言における 身体感覚を表すオノマトペ

江端義夫

はじめに

1. 調査対象地；富山県の西端に位置し、隣接する石川県から国道8号線で倶利伽羅峠を越えた地に広がる町である。昭和62年4月1日現在の人口は、小矢部市全体で37,021人、世帯数8710戸である。昭和60年の産業別人口の比率は、第1次対第2次対第3次=13:44:43である。繊維工業と輸送用機械器具製造等が工業の中では目立ち、米作農業も盛んである。
2. 調査年月日；1991年（平成3）年10月21日
3. 話者；宮崎寛 大正9年6月22日生、71歳
浅香恵 昭和27年1月7日生、39歳
4. 調査者・調査場所；江端義夫・小矢部市役所の会議室
5. 調査方法・調査時の様子；『方言資料叢刊』第2巻用調査票に基づいた質問調査。
（注 2人の話者の回答が異なる場合にだけ、区別して書き分けることがある。話者の説明はく）で表す。）

I 全身の感覚

1-1 快不快

さっぱり セーセー（多）、サッパイ、サッパ
○汗をかいたが、風呂に入って、アー セーセーシタ。

1-2 寒さ

がたがた ガタガタ（一般的な言い方）
○ズコテンパス ツーント キタ。寒さが頭先に来た。（骨身に寒さがしみこむとき）

ふるふる 該当語なし
○キサワ ヒ下イ シンブル アー。今朝はひどく冷えるね。

ぞくぞく ゾクゾクスル

すうすう ゾクゾクスル（多）、サムケガスル、サムケスル

1-3 熱さ

ぼかぼか 該当語なし、ホテッテクル
○酒を飲んだら身体が暖まって、ホテッテキタ。

かっか カッカ、アタマエチガノボル

○卵酒を飲んだら身体がアツク ナツカラ 万ツカスルトカ…。

II 皮膚の感覚

ひりひり ヒリヒリ

○海水浴で日焼けして背中がヒアクレシテ ヒリヒリスル。

べたべた ベツシヨリ、ピツシヨリ、ベタツク

○今日は暑い。汗で背中がベツシヨリヤッチャー。

むずむず 該当語なし、ムズガヤイ、コソバユイ

もぞもぞ モゾモゾスル

かさかさ ガサガサ

○空気が乾燥していて、肌がガサガサヤナイ。

がさがさ 該当語なし

すべすべ ツルツル

○温泉につかって、肌が～する。

つるつる 該当語なし

ずきずき ズキンズキン

○切り傷が～痛い。

○ころんで強く打ったところが～イタム。

ひりひり ヒリヒリ（女が使う）、チョコピント、チョッコシ、チョコピントスコシ

○擦り傷が～痛い。

○やけどしたところがズキズキスル。（ズキンズキンとは言わない。）

ずきんずきん ズキンズキンスル

○できものが腫れてきた。～する。

ぼとぼと ボトボト、ヒリヒリ

○できものが腫んできた。～する。（うみが出る寸前）

* ○しもやけがひどくなってヒリヒリスル。（しもやけのことをカンバと言う。）

III 頭部の感覚

3-1 頭

がんがん カンガン

○熱があつてズコフ シンガ カンガンスル。

くらくら 該当語なし

○熱で頭がメマイスル。

ずきずき 該当語なし

ずきんずきん ズキンズキン

○二日酔いで顔が～する。

3-2 顔面

かっか カット

○恥ずかしくてカチカチ ホテルヨリ カラダヲ ホテテ ヒヤアセ デタ
チャー 茶一。

○恥ずかしくて顔がカットスル。

ぼっと ボーット

○恥ずかしくて顔が～した。

3-3 目

ちかちか チカチカ

○テレビを見すぎて、目が～する。

しょぼしょぼ ショボショボ、チカチカ

○煙くて目が～する。

ごろごろ コロコロ

○目にゴミが入って、～シトル。

3-4 耳

きーん キーン

○ああうるさい。耳がまだ～とする。

じーん ワーン

○ああうるさい。耳がまだ～とする。

じくじく ジクジク、ジクジュク

○耳の中が腫れて汁が出ているようだ。～する。(おできについても言える)

3-5 鼻

むずむず モズモズ

○くしゃみが出そうで、鼻が～する。

ぐじゅぐじゅ グジュグジュ

○風邪をひいたようだ。鼻が～する。

っーん ツーン

○わさびを入れすぎて、鼻が～とする。(鼻の奥のことをシツゴと言う。)

3-6 口

(口全体)

ねちゃねちゃ ベ下ベト(多)、ネバネバ

○納豆は嫌いだ。口が～する。

* ○梅干しを丸ごと食べると、口がア— スッパイ。

* ○あんまり甘いものを食べたからアマツタルイ。

(歯)

がちがち ガチガチ

○寒かった。歯が～鳴っている。

かちかち 該当語なし

ずきずき ズキーンズキーンスル

○虫歯がひどくなって、歯が～する。

ちくちく チクンチクン

○虫歯がひどくなって、歯が～する。

(舌)

ひりひり ビリビリ

○辛いカレーを食べたら舌が～する。

びりびり ビリビリ

○辛いカレーを食べたら舌が～する。(ヒリヒリとは言わない。)

3-7 喉

からから カラカラ

○水をくれ。喉が～だ。

いがいが イヨイゴ

○あくの抜けない筍を食べて、喉が～する。

いがいが 該当語なし

ぜえぜえ ゼーゼー

○息が苦しい。～いつている。

ひゅうひゅう ハーハー

○息が苦しい。～いつている。

IV 胴体の感覚

4-1 肩

こりこり コリコリ

○肩が凝って～する。

4-2 胸

どきどき ドキント

○ああ恐ろしかった。まだ胸が～する。

どきんどきん ドキンドキン

○ああ恐ろしかった。まだ胸が～する。

どっきんどっきん 該当語なし

とくんとくん 下キドキ

○ああ恐ろしかった。まだ胸が～する。

とっくんとっくん 該当語なし

きゅっと ギューツ下

○悲しくて悲しくて胸が～しめつけられる。

むかむか ム万ムカ

○悪いものを食べたようで、胸が～する。〈形容詞はム万ツイ、動詞はム万ツクがある。〉

4-3 腹

(空腹)

ぐうぐう ㇿーㇿー

○お腹がすいて～いう。〈この状態をハラベコという。〉

きゆるきゆる 該当語なし

(満腹)

たぶたぶ ポチャポチャ

○麦茶を飲み過ぎてお腹が～する。

ちゃぼちゃぼ 該当語なし〈チャポチャポは幼児語〉

ちゃぶちゃぶ 該当語なし

ばんばん バンバン

○食べ過ぎた。腹が～だ。〈バンバンニ ハツドルとも言う。〉

(腹下し)

ごろごろ ゴロゴロ

○何か変なものを食べたようだ。腹が～する。

ぐるぐる 該当語なし

びーびー ビービー

○下痢気味だ。腹が～する。

4-4 胃

しくしく シクシク

○困ったことが多くて、(ストレスがたまって)、胃が～痛む。〈女性はシュクシュクスル、男性はシクシクスルと言いがちだという。〉

じくじく ジクジク

○困ったことが多くて、胃が～痛む。〈「胃がジクジクスル ガ」という。主に成人語だという。〉

きりきり キリキリ

○困ったことが多くて、胃が～痛む。

4-5 尻

むずむず ムズムズ

○居心地が悪い。尻が～する。

もぞもぞ 該当語なし

V 手足の感覚

(手)

ぶるぶる ブルブル

○手が～震えて、箸が握めない。

(足)

がくがく ガタガタ

○歩きすぎて、足が～ン チッタ。〈「ガタガタヤチャー」ともいう。〉

(その他)

ぬるぬる ヌルット

○気持ち悪い。～したものが足(手)にあたった。

ぬらっと 該当語なし

VI 関節(骨)の感覚

ごきごき ゴリゴリ

○寝違えて首が～する。

ぐきぐき ズッキンズッキン

○寝違えて首が～する。〈骨の中味まで痛いとき〉

ばきばき ポキン、ポッキン

○そんなに曲げると、骨が～と折れそうだ。

ほきほき 該当語なし

VII その他

おわりに

1. 共通語が無声子音で、当該方言が有声子音で対応する語が注目される。

ひりひり/ビリビリ、びりびり/ビリビリ、かさかさ/ガサガサ、ぼとぼと/ボトボトなど。この逆の例もあるので、法則的とはいえない。

2. 共通語とよく似た語形が多い。しかし、特色の注目されるものもある。

「じーん」を「ワーン」、「むずむず」を「モズモズ」、「いがいが」を「イゴイゴ」、「どきどき」を「ドギント」、「たぶたぶ」を「ポチャポチャ」などと対応させている。当該方言のオノマトペの多様さを示している。

3. 同一の形態素が二回繰り返されて、一語の象徴詞を形成している例は少なくない。

(えぼたよしお 広島大学教育学部)